



防衛大学校 グローバルセキュリティセンターでの 安全保障関連研究

CENTER FOR GLOBAL SECURITY

防衛大学校 グローバルセキュリティセンター

防衛大学校グローバルセキュリティセンターは企画・発信部門、研究部門（クロス・ドメイン以外）、クロス・ドメイン第1研究部門（宇宙、電磁波、無人機）同 第2部門（サイバー、量子）の4部門からなり、国際社会が直面する多種多様な安全保障課題に関する研究に取り組んでおり、研究の実施とその成果を広く国内外に発信することを目的としています。

研究プログラム

現在は以下の12の分野に焦点を当て、防衛に関する基礎的研究の他、軍事科学技術や情報通信技術の高度化によるリスク、海洋、宇宙、サイバースペースなどの国際公共財の安定利用に関するリスクといった安全保障上の課題について、学術・実務の融合型、文理融合型の学際的アプローチによる研究推進を支援しています。

アジア安全保障

ウクライナ戦争でプーチン大統領が使用の可能性を示唆している核戦術は、通常兵力での戦闘で不利な局面を打開するために用いられる。戦術の使用の可能性は、通常兵力との関係性の多様化とともに、2013年以降は「核先制打撃」を公言している。また、2021年1月の朝鮮労働党第8回大会で、金正恩主席は「核兵器の戦術化」を含む兵器開発計画を開示した。さらに今年9月8日には、立つパキスタン、北朝鮮の戦術核開発に着目して、その比較検討を行うことを目的として組織された。

この研究では、核使用に関する宣言の措置の検討も不可欠である。インドの大規模な通常兵力の投入を抑止するために、パキスタンは「フル・ベクトラム・抑止」を掲げているが、そこでは核の先制使用の可能性を排除していない。

海洋安全保障

当分野の研究目的は、セキュリティ・治安、海洋環境、資源開発、主な研究プロジェクト

北朝鮮についていえば、2006年10月に初の核実験を強行したとき、核先制不使用（No First Use; NFU）を宣言しているが、核戦力の多様化とともに、2013年以降は「核先制打撃」を公言している。また、2021年1月の朝鮮労働党第8回大会で、金正恩主席は「核兵器の戦術化」を含む兵器開発計画を開示した。さらに今年9月8日には、立つパキスタン、北朝鮮の戦術核開発に着目して、その比較検討を行うことを目的として組織された。

この研究では、核使用に関する宣言の措置の検討も不可欠である。インドの大規模な通常兵力の投入を抑止するために、パキスタンは「フル・ベクトラム・抑止」を掲げているが、そこでは核の先制使用の可能性を排除していない。

本研究プロジェクトは、防衛大学校での領域を扱う教官に加えて、防衛研究所で南アジア、朝鮮半島の安全保障を扱う教官を中心組織されているが、関連する内外の研究者との意見交換も行っていいる。この研究成果は如何かの形で公刊したいと考えている。

海洋安全保障

当分野の研究目的は、セキュリティ・治安、海洋環境、資源開発、主な研究プロジェクト

北朝鮮についていえば、2006年10月に初の核実験を強行したとき、核先制不使用（No First Use; NFU）を宣言しているが、核戦力の多様化とともに、2013年以降は「核先制打撃」を公言している。また、2021年1月の朝鮮労働党第8回大会で、金正恩主席は「核兵器の戦術化」を含む兵器開発計画を開示した。さらに今年9月8日には、立つパキスタン、北朝鮮の戦術核開発に着目して、その比較検討を行うことを目的として組織された。

この研究では、核使用に関する宣言の措置の検討も不可欠である。インドの大規模な通常兵力の投入を抑止するために、パキスタンは「フル・ベクトラム・抑止」を掲げているが、そこでは核の先制使用の可能性を排除していない。

感染症対策と安全保障

生物学的脅威に対する防御研究は、感染症、生物テロ及び生物学テロ等の対策に直結する。また、感染症対策は国内においても緊急な課題として取り上げられており、安全、予防、対策といった観点から、基礎から応用まで至る研究の重点化が求められている状況である。それゆえ、本プログラムは、感染症等の防護ばかりでなく、国民と自衛官の安全を守るために取り組みに広く貢献したいと考えている。本プログラムは、主に3つの大きな課題から構成されており、現在2つの課題研究が進行している。1つは、細胞生物学的な手法により、安全性の確保されている実験系を用いて、感染症・バイオテロ開発の感染・発症の作用機序の探索及び、その予防・防止法の開発基盤となる研究をしている。

特に、創薬の基盤となる技術の開発や実用化を目指す研究を重点的に展開する予定である。また2つ目は、生物検査技術の基盤となる技術に加し、防衛装備府陸上装備研究所とも連携し、将来の装備品等の研究開発に資する研究をおこなっている。

生物学的脅威

バイオテロ・微生物感染症・寄生虫

細胞生物学的手法の開発

生物検査技術の開発

細胞生物学的手法の開発

細胞生物学的手法の開発